

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470901362
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる新横浜
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1470901362
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる新横浜
所在地	神奈川県横浜市港北区北新横浜2-5-23 (電話) 045-533-4555

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	72,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300円	

(4) 利用者の概要(2月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	最低	66 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	綱島ホームケアクリニック、清水歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者主体の生活の実現に向けて、職員は見守りによるケアを実践している。アセスメントにより利用者の得意なことを把握し、利用者に役割を持ってもらい、日々の生活に張り合いが持てるように支援している。

利用者の意向に沿い、天気の良い日には散歩や買い物、時には車での外出も取り入れている。利用者だけの散歩も取り入れ、本人のできる力を引き出すケアに取り組んでいる。同じ建物内にあるデイサービスの檜風呂を利用したり、運動トレーニングマシンを利用したりハビリ等も取り入れている。

法人で研修体系を作り、内部、外部研修の受講機会を確保し、職員の資質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	2回目の外部評価の受審である。前回の外部評価では特に改善の指摘事項はなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は所長以下4名の管理職でそれぞれ自己評価を行い、まとめた。職員には、外部評価の受審と訪問調査日を周知している。外部評価の結果を受けて、さらに改善に取り組みでいく意向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	訪問調査の実施時点で、まだ運営推進会議は開催していない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が意見や要望等を述べやすいように面会時には必ず声をかけて、話を聞くようにしている。今まで家族から「散歩に行かせてほしい・歩かせてほしい・ご飯を減らしてほしい」などの要望があり、すぐに改善した。今後は、運営推進会議に家族の出席を依頼して、運営への参加を期待している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	介護施設や倉庫の多い地区に位置しているため、住民のいる隣の地区との関わりや隣町の小中学校との連携を検討している。隣接する有料老人ホームとは夏祭りに参加するなどして交流をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人グループの4つ理念とは別に、「私たちは一つでも多くの笑顔に出会うために黒子となりそっと支援します・主役はお客様」という事業所の理念がある。昨秋に職員全員で作ったもので、一人ひとりの利用者を大切に介護の実践から生まれたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務所の壁に貼り、職員が常に目にすることができるようになっている。また月1回の定例会や毎日の朝礼時に読み合わせ、確認をしている。「主役は利用者で職員はあくまでサポート役」という考えを職員に浸透させ、利用者一人ひとりの個性を大切に、見守りによる介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護施設や倉庫が多く存在する地区にあり、住民が少なく自治会がないため、住民のいる隣の地区との関わりや隣町の小中学校との連携を検討している。隣接する有料老人ホームとは夏祭りに参加するなどの交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	2回目の外部評価の受審である。前回は改善の指摘事項はなかった。今回は所長以下4名の管理職でそれぞれ自己評価を行い、まとめた。職員には外部評価の受審と訪問調査日程を知らせている。外部評価の結果を受けて、さらに改善に取り組んでいく意向である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	訪問調査実施時点で、運営推進会議を開催する計画や準備はしていない。		事業所が立地する地域の状況等もあるが、行政の協力を得るなどして、運営推進会議の開催に向けて取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当職員が定期的に来所している。また、成年後見制度の導入を視野に入れ、行政の担当職員と連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には、毎月送る請求書と預かり金の出納報告とともに、ケア記録の写しと毎月発行の広報誌「スマイル便り」を同封し、利用者の生活の様子を知らせている。また、家族が面会に来た時には、日頃の様子を伝えるようにしている。病気や怪我などの突発的な出来事が起きた時には、家族に電話で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望等を言いやすいように、面会時には必ず声をかけて話を聞くようにしている。今までに家族から「散歩に行かせてほしい・歩かせてほしい・ご飯を減らしてほしい」などの要望があり、すぐに改善した。今後は、運営推進会議に家族の出席を依頼し、運営への参加を期待している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、職員の異動と退職が重なり、一時的に人員不足となったが、法人の応援を得て対応した。利用者には十分説明した。今後同じような事態が生じないよう、法人全体で人材育成に力を入れ、離職を防ぐよう取り組んでいくこととしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やリーダー研修を本社で行っている。職員全員に法人の個別研修の案内をして、参加希望を募っている。事業所内では月1回の定例会で、議題を決めて研修を行っている。外部研修を受講した場合は、報告書を作成し、定例会で報告するなどして、職員間で共有している。資格の取得に積極的に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港北区のグループホーム連絡会協議会に加入しており、協議会では2ヶ月に1度研修会が開かれている。また、同一法人が運営するグループホームが県内に4事業所あり、職員の交換研修や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居の体制があり、アセスメントを実施後、本入居の前に3～5日間の体験入居ができる。体験入居を利用して本入居となった方がいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者との関係を大切に支援をしている。利用者はそれぞれ役割を持っており、得意なことを生活に役立てている。人生の先輩である利用者から教えてもらうことがある。職員は元気のない時や失敗した時など、利用者にも励まされたり慰められている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日中の過ごし方は、本人の意向を重視し、自室で過ごすことが好きな利用者には、フロアに出ることを無理強いしないようにしている。外出は、午前の散歩や午後の買い物時に利用者にも声をかけ、自由に参加してもらっている。食事のメニューも、会話の中で食べたいものがあれば当日でも変更するなどして、利用者本位の生活となるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回は家族からの聞き取りでアセスメントを行い課題を抽出し、更新時は職員全員が利用者一人ひとりの再アセスメントを行い、それを基にケアマネジャーが本人や家族から聞き取りを行い、介護計画の原案を作成している。原案は本人、家族、職員に意見を求め、修正している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に介護計画を見直すことにしており、介護計画の作成にあたっては再アセスメントを行い、本人、家族、職員の意見を聞き、確認をしている。また入院や状況が変化した時はその都度見直しをしている。退院時には看護サマリーを看護師に作成してもらうようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にある同一法人のデイサービスの開所時間外に、車椅子対応の浴室を使っての入浴支援や、デイサービスにある運動トレーニングマシンを利用してリハビリを行うこともある。午前10時から午後4時の間は、外出の希望があればデイサービスの車を借りてドライブなどができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診は家族対応で行っている。2週間に1度の内科医の往診のほか、歯科医が毎週来ており、必要に応じ通院治療を受けることができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて、検討しているところである。今後、職員の意識統一をはかり、医療面等の体制確保が必要だと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保と秘密保持について、契約書に明示し、本人、家族に契約時に説明をしている。また、職員には誓約書の提出を求め、個人情報の持ち出しを禁止している。日頃のケアでも居屋に入室する際には必ず声をかけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の会話の中で食べたい物があればメニューを変更して、買い物に出かけることがある。利用者の体調がすぐれない時などには、居室で食事を摂ってもらうこともある。外出の時間は特に決めず、天候等に合わせて随時変更している。また、希望があれば、車で遠出することもある。入浴は時間や順序を決めずに入浴してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者に希望を聞き、その日に変更することもある。行事食を取り入れたり、定期的に外食に出かけるなど、食事を楽しめるように工夫している。食事作りの好きな利用者には手伝ってもらうよう声をかけている。訪問調査当日も利用者が材料を刻むなどできる事を手伝っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めずに、声かけをしながら希望に添って入浴剤を入れるなどして、楽しんでもらっている。車椅子を利用している利用者には、1階にある同一法人のデイサービスの檜風呂に入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより、利用者の得意なことを把握し、手伝ってもらうよう声かけをしており、書くこと、掃除、料理、大工仕事や園芸等が得意あるいは好きな利用者には、その都度職員が個々に声かけて、特技を活かしてもらうようにしている。外出が好きな利用者が多く、法人全体での1泊旅行なども実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の好きな利用者が多く、できるだけ外出の機会を設けている。天気が良い日には朝の散歩に出かけ、昼過ぎには夕食の買い物に希望する利用者と一緒に出かけている。家族の了解を得た上で、利用者だけで近くに出かけることもあり、その際は万が一の事を考えて名札をつけてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時から鍵を掛けない支援をしてきたが、安全性を考慮し事故を防ぐ意味で、2階にある事業所の入口の扉は鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の方針で非常用食糧や備品の備蓄をしている。開設後2～3ヶ月目に防災訓練を行ったが、その後は防災訓練を行っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個人チェック表に記録している。メニューは職員が作り、利用者の嗜好はアセスメント時に把握し、嫌いなものは省いたり、別のメニューにするなどしている。利用者の健康状態に応じて摂取カロリーの制限をするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間を中心にバリアフリーになっており、車椅子でも自由に行き来できるよう工夫している。廊下のコーナーの台に手芸かごを置いたり、壁に小さな額入りの絵を飾るなど家庭的な温かさを演出している。廊下の壁には利用者の書初め習字や皆で作ったバレンタインのハートの飾りが飾られ季節感を出している。また家族から蔵書の提供を受け、図書コーナーも設けている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の手作り品や昔の写真・感謝状など思い出の品が飾られている。使い慣れたタンスや仏壇、机やテーブル、テレビやホットカーペットなどが持ち込まれ、それぞれに居心地の良い居室になっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる新横浜
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区北新横浜2-5-23
記入者名 (管理者)	風間 和幸
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所にて理念を掲げ、少しでも実践できるよう心掛けている。	地域に密着して、地域の住人となるよう努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目の届きやすい箇所に貼り、常に意識できるようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	取り組めていない。	近隣の郵便会社に所長、管理者の名刺を渡し、GHについて説明し、理解をして頂き、配達時に注意をして頂くようお願いしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	集合住宅、工場が多いために、中々難しい現実にあります。	集合住宅や近隣にむけ等ホームにて認知症についての講演会等を実施したい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	取り組めていない。	地域の事に目を向けて、今後地域活動及び自治会に参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組めていない。		地域にどのような方が生活しているか把握し交流を図る。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組めていない。		今回評価の不足に対して、今後取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未実施の為に早急に取り組みたい。		ご家族に今後実施の予定は周知している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組めていない。		市町村との連携を図り、サービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加したり、ホーム内で成年後見人制度のパンフレットを回覧し理解を深めており、必要な方には区、警察、弁護士に働き掛け活用している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し職員間で意見の交換を図る		マニュアルの作成し更に虐待防止の徹底に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、事業所長及び管理者より、十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市町村に意義申し立て機関を設けている。</p>	<p>重要事項説明書に市町村の意義申し立て機関の連絡先を明記している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の生活の様子、イベント事について配布している。</p>	<p>スマイル新聞を作成し生活の様子以外での報告を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に表出できる機会は設けてないが、面会時等に意見聴取をするよう心掛けている。</p>	<p>定期的の家族会を設けている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の定例会議を設けて、職員間の意見の徴収に勤めている。</p>	<p>所長により個人面談も設けている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた勤務表を作成している。</p>	<p>職員の統一したスキルアップを心掛けたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動があり、利用者の配慮までは、至らない所がある。</p>	<p>法人内でも配慮してもらえるよう意見を述べていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員入社時に採用時研修の実施。又、法人内での勉強会、外部の研修に参加してもらう。		法人内での職員による職員の為の研修会をつきに1回設けている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なグループホーム連絡会に参加し交流を図ると共に情報交換に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所長による個人面談を実施している。		職場環境を話しやすい雰囲気を作り、更にストレス軽減に努めたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な部長や課長の訪問があり、職員との交流を深めて、話しを出来る機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込み後、在宅又は施設へ訪問し、本人と面談し今までの生活スタイルが継続出来るよう配慮している。又体験入居を通してより安心感を持って入居して頂くよう心掛けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報収集時に不安や今後の要望を把握し、良く話し合い、お互いの理解を深め信頼関係を築くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いを設けて、不明な点は後日お伝えしている。		定期的な話し合いの場を設けたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居をして頂き、本人、職員間で馴染み安い環境を作る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も家族という位置づけにあり、共に生活している雰囲気を出している。		職員、利用者との信頼関係を更に築く。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を取り、協力を得て、ご本人にとって良い方法を見出している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	アセスメント時に本人の生活歴を詳しく聞き、支援に役立っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	取り組めていない。		お客様の馴染みは把握しているが、交流には至らず。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や買い物時にお客様同士で会話や楽しみを考慮している。		お客様同士に任せている部分があり、本人同士で関係性を築いて頂いてる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時にも連絡をするよ心掛けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、家族からの情報収集。それまでの入院先等の情報を基に一人ひとりの自立を大切に支援を心掛けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネによるアセスメント実施。入居後にもセンター方式の活用によりお客様の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームでの生活状況から、本人の希望や思いの把握に努め、日々の記録や日常の生活の中で小さな気付きを大切に職員間で情報の共有を図るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には本人、家族、他の医療機関よりの情報とニーズを導き出し、利用者に安全、安心を確保し、自立できることへの支援を中心に介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活状況、ADL等を日々チェックし、家族や介護関係者への意見を取り入れ、介護計画の検討、見直しを行っている		本人の変化があれば、その都度検討し、見直しを行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させる為に職員の申し送りや情報伝達を確実にし、一人ひとりの変化や状況を記録し共有し見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階がDSでもあるので、DS終了後に入浴、CGTの利用をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの活用や、物盗られ時に警察の協力を得て、利用している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	取り組めていない。		他のケアマネや、事業所との連携を図り、協力を得たい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	取り組めていない。		地域包括支援センターとの連携を取る。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診医にかかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	一人ひとりの認知状態をしっかりと把握した上で、より良い介護の実践の為、認知症専門医に受診するよう方向づけを家族へ提案し、定期的受診と治療を受けられるよう支援している。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	管理者と担当看護師により連携は取れている。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時には家族を通して、担当Drに伝えてもらうよう心掛けている		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	取り組めていない。		終末期については検討段階であり、職員間での意識統一も必要となる。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	入居者の出来ること・出来ない事の把握には努めている。担当医の意見も聞くようにしている。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	家族との話し合いの場を設けている、又移り先に情報提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お客様一人一人を尊重し対応している。又生活の記録等は家族に配布している。個人情報の取り扱いにも十分な注意を払っている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人の希望や状態、体調に合わせ好きな事をしてもらい、その人のペースを尊重するよう支援を心掛けている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な業務に追われる事が多く1人のペースに合わせられない事が多々ある。	日常的な業務に追われるのではなく、1人のペースに合わせて、その人らしく生活して頂けるよう心掛ける。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容に関しては、訪問美容に任せている。訪問美容を好まないお客様は、本人が好む店に行くようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、お客様に手伝って頂いている。又片付けもお客様に出来る範囲でやって頂いてる。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒に関しては、制限しているが基本的には自由に飲んで頂いてる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄パターンを把握し、お客様にあった排泄を行っている。		排泄表に排泄間隔を記入し、お客様によっては、ポータブルトイレを活用している。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入浴時間、曜日は特に決めていないので、自由に入れる環境を作っている。		DS浴槽(檜)もDS終了後には利用している。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	就寝時間は特に決めていない。		就寝の声掛けは行うが、特に時間は定めてなく自由に就寝、仮眠をして頂いている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	お客様の得意な事を把握し、その都度協力を得て手伝っていただいている。		飲酒等、家族の了解を得て行っている。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	毎日、買い物の時間を設けていて、その時にお客様に買い物をして頂いている。金銭管理は職員がしている。		お客様だけで買い物にも行って頂いている。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	スタッフの同行無しでお客様同士のみでの散歩を実施している。(家族了承のうえ)		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	改めて機会を設けてはいないが、その都度お客様の希望に沿うよう支援している。		日帰りバス旅行や1泊旅行など行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を自由に利用して頂いてる。お客様によっては携帯電話を持たれている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めているもののある程度、自由に出入りできる。		面会時間に定めを作らず、玄関も常に開放してさらに自由な出入りが可能にしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに職員全員勤めているが、介護保健上の基準までもは理解に乏しい。		身体拘束に関するマニュアルを作成し周知徹底を図る。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない事には取り組んでいるが、状況に応じては難しい所がある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全を考慮し所在を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	配慮はしているが、十分ではない。		職員のスキルアップが必要で、研修、勉強会等の実施を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、消防士や専門職を招いての勉強会等を実施している。		定期的な開催をしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	任務分担を掲示しており、対応できる体制をとっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方に多く発生しそうなリスクに対してご家族とも相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定の実施、また入浴前にも実施し、体調管理に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各お客様ファイルに服薬表を添付して有り、必ず把握に努めている。変化があった際には担当医との連携を図っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防として、服薬だけに頼らず、牛乳、果物の摂取を心掛けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの実施。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援を行うと共に、記録として残し確認できるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	訪問医による、インフルエンザ予防接種を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の除菌の実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	和やかな雰囲気作りとして、花を置いたり、置物を置いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、施設感を消すように調度品、カレンダーなどを配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の家の延長上として、各居室にご自身の物を持ち込んで頂いてる。		お客様同士、気の合う方は互いに行き来している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の配置は、ご本人、家族にお任せしている。又持ち込み禁止物も特にない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内換気は常に行っている。室温調整もこまめにお客様主体に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計と共に手すり等にも配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室やトイレに名札を貼り、混乱や失敗をさけるよう配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上にてガーデニングや施設玄関にて草花の栽培している。又一部の入居者に関しては、ベランダにて植物を栽培したり、洗濯物を干している。		近隣の畑を一部借りて、農作業をしたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・お客様だけど散歩の実施。
- ・お客様が出来る事は積極的に行って頂く（掃除、洗濯、食事の準備・・・）
- ・日帰りバス旅行、1泊旅行の実施。